

G-6 広島・東京・岩手の3都県における家庭内被服製作の実態調査(女報)
広島大教育 石渡すみ江 大妻女大 大山サカエ 岩手大教育 清水房

目的 3報に引続いて女報は1年間に於ける自家製作品別数量に対する47年と42年の調査の比較についての実態を報告する。

方法 3報に示したとおりである。

結果 ①洋服類は両調査とも3地域において多く縫われているのは同じでワンピース、スカート、ブラウス、スラックス、スーツで、3地域別の洋服類13英の製作数量は両調査とも東京が1番多く次広島、岩手の順になる。各地域内の両調査の比較は広島のみ42年より増加し、他の2地域は減少。②乳幼児服類は両調査とも3地域の合計で多く縫われているのはこども用ズボン、ワンピース、スカートで、3地域別の乳幼児服類9英の製作数量は47年は広島が1番多く次東京、岩手、42年は岩手が1番多く次東京、広島の順になる。各地域内の比較では広島のみが42年より増加し、他の2地域は減少。③和服類は両調査とも3地域において多く縫われているのは大裁女物長着のウール、絹布、木綿、大裁女物はおり、肌じゅばん、長じゅばんで、3地域別の和服類18英の製作数量は両調査とも岩手が1番多く次東京、広島の順になる。3地域とも42年より減少。④寝具類は両調査とも3地域において多く取扱われているのはざぶとん、かけざぶとん、しきざぶとんである。3地域別の寝具類8英の製作数量は両調査とも岩手が1番多く次広島、東京の順になる。3地域とも42年より減少。⑤小もの類7英の製作数量は3地域別では両調査とも東京が1番多い。3地域とも42年より減少。⑥つくろいものは東京、岩手においては42年よりよく行われるようになった。